

二度の留学生センターサマープログラムを 振り返って

永井智香子

1. はじめに

長崎大学留学生センターでは第1回サマープログラムを2011年の8月に、第2回のサマープログラムを2013年の8月に実施した。2度とも長崎大学の協定校であるオランダ・ライデン大学の日本語日本文化学科の1年生（1年間の学習を終え2年生になる前の）を対象とした有料（1名の参加費55,000円）の8日間の短いプログラムであった。

サマープログラムの実施は留学生センターにとって初めてのことで、2009年、つまり、第1回目実施の2年前からサマープログラム経験校にアンケートを送付して情報収集をするなど、どのようなプログラム内容にするか試行錯誤を重ねた。

1回目も2回目もプログラム最終日に参加学生に評価アンケートを行ったが、2度ともよい評価を得ることができた。2回目は1回目の経験に基づいてプログラムの内容を見直した結果、さらによりよい評価を得た。

2014年現在、今後、サマープログラムが実施されるかどうかかわからないが、実施の記録を残しておくことは必要であると考え、以下に簡単に2度のサマープログラムについてまとめてみた。

2. 2011年8月の第1回サマープログラムについて

2010年の秋までに実施要項を作成し、ライデン大学に送付した結果、ライデン大学側から10名の参加希望者の推薦を受け、実施する運びとなった。プログラム詳細は以下の通りである。

2-1 プログラムの概要

2-1-1 実施時期の決定について

実施時期であるが、8月下旬以外に選択肢はなかった。4月から8月上旬ま

で留学生センターでは前期の授業があり、午前中常に使える空き教室もなく、サマープログラムのコーディネーターとしてプログラムに集中して目を配ることができる教員や職員もいなかった。また、授業期間中は留学生宿舍の空きもなく、さらに、参加対象のライデン大学では9月1日から新学期がはじまることを勘案すると、盆休み明けの8月下旬以外に実施できるときはなく、第1回目は2011年の8月23日（火曜）から8月30日（火曜）となった。

2-1-2 プログラムの内容について

プログラムの内容はプレゼンテーション、日本語の授業、文化に関する講義、文化体験、フィールドトリップ、の大きく5つに分けられる。実質7日間という短い期間なので、日本語教育に重点を置くより、文化の講義や文化体験、フィールドトリップをできるだけ多く盛り込んだ。具体的には以下のようであった。

・プレゼンテーション

プログラム最後に一人5分程度で、プログラムの期間中に撮った写真の中から2枚選んで、その写真について説明するというものであった。写真に写っているのが人物であるなら、その人物へのインタビューも発表に盛り込まなければならないとした。

・日本語の授業

短期間で通常の日本語の授業を行ったとしても顕著な伸びは期待できない。そこで、プリント教材を使い、プログラム日程中に実際に使うであろう語彙や言い回しを教えたり、プレゼンテーションの準備をするという内容にした。

・文化に関する講義

文化に関する講義は2種類で、90分2コマずつ行った。①日本在住のオランダ人講師による日蘭交流に関する講義②日本のアニメに関する講義、である。どちらも主に英語を使って行われた。

・文化体験

まず、伝統文化の体験として茶道と着物のクラスをそれぞれ90分1コマずつ実施した。どちらも専門の講師による授業で、学内の畳の部屋を使って行った。次に学内のよさこいサークル「突風」によるよさこい体験授業を

90分2コマで実施した。

・フィールドトリップ

2回実施した。1回目はプログラム2日目に長崎大学の国際交流サークル「アミーゴ」のメンバーとともに小グループで、長崎市内を歩いた。その際にただ歩くだけではなく、必ず日蘭交流の歴史にゆかりのあるところへも行くこと、プレゼンテーションに使う写真を撮ることという条件をつけた。

2回目は雲仙・島原への日帰りバス旅行であった。

表1 2011年長崎大学留学生センターサマープログラム日程表

	1校時 8:50～10:20	2校時 10:30～12:00	3校時 12:50～14:20	4校時 14:30～16:00
8月22日	16:00までに各自留学生宿舎に到着			
8月23日	開講式 オリエンテーション	日本語の授業	日蘭交流に関する講義	
8月24日	日本語の授業	日本語の授業	国際交流サークル「アミーゴ」と長崎市内を歩く	
8月25日	日本語の授業	日本語の授業	日本のアニメに関する講義	
8月26日	日本語の授業	日本語の授業	茶道体験	着物体験
8月27日	雲仙・島原へのフィールドトリップ			
8月28日	1日自由行動			
8月29日	日本語の授業	日本語の授業	よさこいサークル「突風」によるよさこい体験	
8月30日	プレゼンテーション	閉講式		

2-1-3 受け入れ対象者と人数

受け入れ対象者はオランダ、ライデン大学の1年間の学習を終えた者であった。長崎大学留学生センターには「交換留学生日本語プログラム(NUJALP)」があり、ライデン大学から、2年間の学習を終えた日本語・日本文化学科の学生10名を1年間受け入れている。サマープログラムへの参加がNUJALPへの参加動機を高める可能性も考え、対象者をNUJALP参加対象者の1年下のものとした。サマープログラムの受け入れ人数は宿舎の空き状

況等を考慮し、10名が適当であると思われた。

2-1-4 引率の要請について

参加学生への生活指導、緊急事態への対応を担う者が必要であると考え、引率者の随行を希望することをライデン大学側に伝えた。その結果、1名の教員が引率者とした派遣された。

2-2 参加者に実施したアンケートから

最終日の8月30日に参加者に評価アンケートを実施した（実際に使用した評価用紙は巻末の資料1参照）。各プログラム別に5段階評価（5が高評価）で行った。さらに、各プログラム別に1行のコメント欄を、最後にスペースをとって自由記述欄を設けた。以下に結果を簡単に記す（英語での記述は日本語に翻訳）。

2-2-1 アンケートに書かれていたコメント

ほとんどが5あるいは4の高評価であった。中でも全員が最高評価の5をつけたのがプログラム2日目の「国際交流サークル「アミーゴ」と長崎市内を歩く」であった。まず、そこにはどのようなコメントが書かれていたのかを紹介したい。

- ・とてもたのしかったです。
- ・とてもよかったです！
- ・同じ「age」と一緒に長崎に行ったのは楽しかったです。新しい友達になりました。
- ・このようなプログラムに参加しなければ、決して見ることはできないものをたくさん見た（英文を翻訳）。
- ・素晴らしい日だった（英文を翻訳）。
- ・特にコメントはない。すごいでけでした。

日本語のプログラムについても多くのコメントが書かれていた。以下に記す。

- ・1コマ90分は長すぎる。もっと休憩時間が必要（英文を翻訳、他に類似コメント2名）
- ・いい練習になったが、何も新しいことを学ばなかった。もっと、文法や

発音などについて学びたかった（英文を翻訳）。

- ・初日は日本語をわかるのが少し難しかったですが、それからよくなりました。
- ・プレゼンテーションの準備に多くの時間が使われていた。適切な日本語の使い方の授業があれば、よりよかったと思う（英文を翻訳）
- ・プレゼンテーションのための準備としてはよかった（英文を翻訳）。

その他のコメント

日蘭交流に関する講義について

- ・講義の内容がライデン大学で既に学んだことと同じだったので、なくてもよかった。（英文を翻訳、他に類似コメント2名）。
- ・蘭学の「overview」についてはオランダには授業がありませんから、本当におもしろかったです。

アニメのクラスについて

- ・おもしろかったです。
- ・アニメについてあまりよく知りませんでしたから本当におもしろかったです。
- ・もっとアニメの異なった面についての深く掘り下げた講義であればよりよかったと思う（英文を翻訳）。
- ・ほんとおもしろくて、先生はあたまがよくて、楽しかったクラスでした。

自由記述欄に書かれていたこと

- ・プログラムが短すぎた。そのため、短い期間に急いで多くのことをしなければならなかった。もし、もっと長かったら、もっと落ち着いて集中して、ゆっくり取り組むことができ、休むこともできた。プログラムを3週間ぐらいにすることを提案したい。それから、宿舎にインターネットがないのは不便だった。（英文を翻訳、他に類似コメント3名）
- ・サマープログラムは少し短かったですから、寝る時間があまりなくて、ときどき疲れましたが、サマープログラムの先生とクラスと体験は本当によかったと思います。

2-2-2 アンケートからわかること

全体的に高評価であったが、中でも評価が高かったのが、小グループに分かれて日本人学生と自由に長崎市内を歩いたプログラムであった。コメントからも分かるが、教師が主導権を握るコントロールされた授業ではなく、同じ年代の大学生と自由に長崎市内を歩くことの楽しさ、そして友達になれたことは大きい意味を持つようだ。協力してくれた国際交流サークル「アミーゴ」のメンバーにも感想を聞いたが、同じく非常に楽しかったとのことで、8月28日の日曜も一緒に過ごしたという。さらに、2012年の春休みには数名の「アミーゴ」のメンバーがオランダを訪問したとのことだ。

日本語の授業に対するコメントからわかることは、短い期間の日本語学習であってもプログラム参加者は日本語についても何か新しいことを学んで帰りたいと思っていたということだ。

日蘭交流に関する授業についてのコメントからわかったことは、オランダで同じような授業を受けていた者とそうでない者がいることである。

自由記述欄に書かれていたことから、多くの参加者がサマープログラムは短すぎ、その結果、落ち着いて各プログラムに取り組めなかったとしている。この点に関して、次回に向けて何等かの改善をする必要があると思われるが、開催時期が限られているので、期間を長くすることはできないが、プログラムの中身を見直す必要があると思われる。

2-3 次回へ向けての改善点等

次回に向けての改善点であるが、大きく分けて三つあった。

まず、これは長崎大学側の問題ではないが、帰国の飛行機の予約の関係で、8月30日のプレゼンテーションに参加しなかったものが3名もいたことである。このことに関してはライデン大学側に募集をかけてもらう際に、全日程に参加できることの確認を依頼することとした。

次にアンケートの結果からもわかるが、日蘭関係の講義は、そのような授業をオランダですでに受けている者といない者がいるようなので、行わないこととする。さらに、日本語の授業についてであるが、何か学生にとって新しいことを学んだことが実感できるものとする必要があることもわかった。

3. 2013年8月の第2回サマープログラムについて

2012年の8月にもサマープログラムを実施する予定で準備を進め、プログラムの日程、講師、すべて決まり、2012年の4月にライデン大学に募集要項を送付した。5月にライデン大学側より、参加希望者が集まらないとの連絡を受け、中止となった。ライデン大学側によると、オランダでは夏の休暇の予定を前年の秋に決めるとのことで、4月に募集をかけても、ほとんどの学生は8月の予定が決まっていて、参加できないということであった。秋に募集要項を送付してほしいという依頼があった。

3-1 2回目のサマープログラムの実施

2012年の秋に募集要項を送付した結果、13名の参加希望者の推薦を受け、実施することができた。日程は2013年8月20日から8月27日であった。1回目同様、引率を要請したが、引率はつけられないという連絡を受けた。

3-1-1 プログラムの内容

プログラムの内容は1回目同様、プレゼンテーション、日本語の授業、文化に関する講義、文化体験、フィールドトリップ、の5つに分けられる。1回目の評価が高く、2回目も引き続き実施したものは、プレゼンテーション、国際交流サークルアミーゴと長崎市内を歩く、よさこいサークル突風によるよさこい体験、日本のアニメに関する講義、日本文化体験（茶道）、雲仙・島原へのバス旅行であった。

変更点であるが、1回目に外部の講師に依頼した日蘭関係の講義が2コマあったが、それを、2回目は長崎大学の教員による、長崎とオランダの関係に焦点をあてた講義を1コマ、日本経済に関する講義を1コマに変更した。それらの講義はいずれもオランダ語、あるいは英語で行われた。

日本語の授業に関しては、2回目は目標を「敬語を身につける」とし、教室での敬語に関する授業に合わせて、実習として、「日本のおもてなしを学ぶ」ということで、長崎市内の老舗百貨店「浜屋」の協力を得て、朝礼見学、おもてなしについての講義、ラッピング実習などを行った。

伝統文化体験は1回目と同様に茶道と着物であったが、着物に関しては、着物の講師の自宅でホームビジットを兼ねて行った。具体的な日程は以下の表2のようであった。

表2 2013年長崎大学留学生センターサマープログラム日程表

	1校時 8:50～10:20	2校時 10:30～12:00	3校時 12:50～14:20	4校時 14:30～16:00
8月19日	16:00までに各自留学生宿舎に到着			
8月20日	開講式 オリエンテーション	日本語の授業	日蘭交流に関する講義	日本の経済に関する講義
8月21日	日本語の授業	日本語の授業	国際交流サークル「アミーゴ」と長崎市内を歩く	
8月22日	日本のおもてなしについて浜屋百貨店で学ぶ		よさこいサークル突風によるよさこい体験	
8月23日	日本語の授業	茶道体験	ホームビジットと着物体験	
8月24日	雲仙・島原へのフィールドトリップ			
8月25日	1日自由行動			
8月26日	日本語の授業	日本語の授業	日本のアニメに関する講義	
8月27日	プレゼンテーション	閉講式		

3-2 参加者に実施したアンケートから

最終日の8月27日に参加者にアンケートを実施した（実際に使用した評価用紙は巻末の資料2参照）。内容は1回目と同様で、各プログラム別に5段階評価（5が高評価）で行った。さらに、各プログラム別に1行のコメント欄を、最後にスペースをとって自由記述欄を設けた。以下に結果を簡単に記す（英語での記述は日本語に翻訳）。

3-2-1 アンケートに書かれていたコメント

1回目同様、ほとんどが5あるいは4の高評価であった。中でもよかったのが「ホームビジットと着物体験」であった。まず、そこにはどのようなコメントが書かれていたのかを紹介したい。

- ・着物を着るのはいい体験だが、時間が長かった（英文を翻訳）。
- ・本当いいと思います。着物の練習は長かったですが、面白かったです。おもてなしでした。
- ・西洋人には着物はうまく着ることができないと思っていた。しかし、先

- 生はきちんと指導してくださいました。いい一日でした（英文を翻訳）。
- ・好きでした。日本語で話してわかりやすく、とても優しい人でした。それに面白かったです。
 - ・美しい着物、素晴らしい日でした（英文を翻訳）
 - ・すばらしい日だった（英文を翻訳）。

「国際交流サークルアミーゴと長崎市内を歩く」も高評価を得た。コメントは以下の通りである。

- ・楽しかった。私の日本語に本当に役に立ちました。ありがとうございます。みなさん、やさしかったです。
- ・日本語の会話力を上げることができました。皆とってもいい人でした（英文を翻訳）。
- ・新しい友たちに会った。
- ・みんなが親切にしてくれました。
- ・とても楽しくて、友達ができて、日本語を話しました。
- ・楽しかったが、時間が短すぎた（英文を翻訳、他に類似のコメントが2名）

日本語のプログラムについても多くのコメントが書かれていた。以下に記す。

- ・本当におもしろかったのですが、ちょっと少なかったです（他に類似のコメントが3名）。
- ・クラスはよかったです、少なすぎます。プログラムには6コマあると書かれていたが、2コマしかなかった。
- ・クラスが少なかったが、敬語の授業はよかった（英文を翻訳）。
- ・1コマ90分は長いです。もっと休憩が多ければよい（英文を翻訳）。
- ・先生が上手でしたけど、クラスが短すぎた。
- ・もっとレッスンプランをきちんと立てたほうがよい（英文を翻訳）
- ・よかったです、日本語の練習は少なかったです。でも発表は楽しかったです。

日蘭交流に関する講義は非常に評価が高かった。

二度の留学生センターサマープログラムを振り返って

- ・自分は歴史に弱いですが、講義はとても興味深かった（英文を翻訳）。
- ・非常にわかりやすい授業だった。ただ、少し早かった（英文を翻訳）
- ・楽しかったです。しかし、もっと勉強したいと思います。授業がちよつと少なかつたと思います。
- ・日蘭関係の面白い講義だった（英文を翻訳、他に類似のコメント2名）
- ・面白かつたと思います。
- ・講義の内容の大部分はもう知っていることだったが、もう一度聞くのも思い出すのによかつた（英文を翻訳）。

1回目にはなかつた「日本のおもてなしについて浜屋百貨店で学ぶ」については以下のようなコメントがあつた。

- ・経験としては非常に面白かつた。しかし、使われていた日本語はオランダでまったく習つたことがないものだった（英文を翻訳）。
- ・百貨店のスタッフの日本語のレベルが理解するには高すぎた（英文を翻訳、他に類似のコメント2名）。
- ・デパートの店員の話し方は早すぎます。
- ・楽しかつたですが、説明は早すぎます。
- ・おもてなしやふろしきは面白かつたけど、日本語はちよつと難しすぎました。ときどき、なかなかわからなかつたです。
- ・非常におもしろかつた（英文を翻訳）。
- ・もっとおもてなしについて学びたかつた（英文を翻訳）

アンケート最後の自由記述欄に書かれていたこと

- ・とても楽しかつたんです。特に長崎大学生と毎日遊んだのがとても楽しかつた。いろいろな友達ができて、必ず、戻りたいです。
- ・本当にありがとうございます。日本語の授業が少なかつたのが残念です。しかし、本当にこのプログラムを楽しみました。スタッフはとても親切でした。本当にこのプログラムに参加できてよかつたと思つています（英文を翻訳）
- ・プログラムは少し忙しすぎたが、本当に楽しかつた。
- ・このプログラムは長崎大学への留学がどういふものかを知るための第一歩となる（英文を翻訳）。

- ・日本語を勉強しに来たので、もっと多くの日本語のクラスを受けたかった（英文を翻訳）
- ・長崎は非常に美しいところです。よい機会をありがとうございました（英文を翻訳）。

3-2-2 アンケートからわかること

全体的にはプログラムに満足していることがうかがえるが、日本語のクラスが少ないと思っている者が多いことがわかる。筆者はプレゼンテーションの準備も日本語のクラスと位置付けていたが、参加者らにはそのように伝わっていなかったようだ。正味7日間の非常に短いプログラムである。筆者らは教室に座っているより、できるだけさまざまな体験をさせたいと考え、プログラムを組み立ててきた。この問題を解決するにはプログラム自体をもう少し長くするしかない。「日本のおもてなしについて浜屋百貨店で学ぶ」については、百貨店のスタッフの日本語が非常に難しかったようだ。実施前に何度も打ち合わせを重ねたが、実際に使われる日本語に関する部分では準備が足りなかったように思われる。着物のクラスをホームビジットを兼ねて実施したことはよかったことがうかがえる。学生たちは着物の講師の家族ともさまざまな話をし、夏の日本の食べ物である素麺を振る舞われ、よい経験になったようだ。

4. おわりに

2回目のサマープログラムのアンケートの自由記述欄に「必ず戻ります」「長崎大学への留学がどういうものかを知るための第一歩となる」というものがあつた。短期の留学プログラムの目的の一つに、より長期の留学への動機づけを行うというものがある。上記の二つのコメントはこのことを示唆した言葉であるとも言える。

2014年の4月より、ライデン大学の日本語・日本文化学科の2年生の学生を約3か月間受け入れる有料の「長崎大学短期中級プログラム」が始まった。中級レベルの日本語を集中的に学ぶプログラムである。第一期生として10名のライデン大生を受け入れている。うち6名が2013年8月のサマープログラム参加者である。ライデン大学側は成績に本人の希望を加味して長崎大学に派遣する学生を選んだというが、サマープログラム参加者の多くが戻ってきた

ことはうれしいことである。

(留学生センター准教授)

(資料1)

サマープログラム 学生評価 (student evaluation)

次の1、2、3、4、5 でマークしてください。

1→ぜんぜんよくなかった

2→1と3の間^{あいだ}

3→まあまあ、ふつう

4→3と5の間^{あいだ}

5→とてもよかった

☆コメントは英語でも日本語でもいいです。

①日本語のクラスはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

②23日の蘭学^{らんがく}のクラスはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

③24日のアミーゴとの長崎市の散歩^{さんぽ}はどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

④25日のアニメのクラスはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑤26日のお茶のクラスはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑥26日の着物のクラスはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑦27日の雲仙・島原へのバス旅行はどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑧29日のよさこいはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑨プレゼンテーションはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

④宿舎はどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

ほかに何かサマープログラムについて感想、意見などがあったら自由に書いてください。

(資料2)

2013年サマープログラム 学生評価 (student evaluation)

*なぜ長崎大学のサマープログラムに参加しようと思いましたが (英語か日本語で書いてください)。

以下の質問は次の1、2、3、4、5 でマークしてください。コメントがあれば、コメントも書いてください。コメントは英語か日本語で書いてください。

1→ぜんぜんよくなかった

2→1と3の間

3→まあまあ、ふつう

4→3と5の間

5→とてもよかった

①日本語のクラスはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

②20日 (火曜) の蘭学のクラスはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

③20日 (火曜) の経済のクラスはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

④21日 (水曜) のアミーゴとの長崎市の散歩はどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑤22日 (木曜) の浜屋デパートでのおもてなしの勉強はどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑥22日 (木曜) のよさこいはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑦23日 (金曜) のお茶のクラスはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑧23日 (金曜) の先生のうちの着物のクラスはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑨24日の雲仙・島原へのバス旅行はどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑩26日のアニメのクラスはどうでしたか。

1・2・3・4・5

コメント

()

⑪プレゼンテーションはどうでしたか。

1・2・3・4・5

